

私の写真館

私の日々の活動の中から皆様に伝えたいことを写真に現します。

毎年11月に行われる「三川内神楽(梅木)」を観に行くのは、今回で4回目になります。拝殿へ入るだけでとても心が落ち着きます。江戸中後期から継承された「三川内神楽」が、戦後、途絶えようとしていたのを守ることができたのは、後継者を育て伝統を保持することに努めた地域の方々の情熱でした。今では、小・中学生、そして学校の先生の舞う姿を見ることができます。



「三川内神楽(梅木)」は歌糸、下塚、梅木、大井、市尾内の5地区に伝わります。演目は「壺神楽」に始まり、昔、内藤家が献上していたとされる三川内のお米が豊作でありますように「花舞」、「繰り降ろし」、「祝詞」、「柴(しば)引き」などの作神楽、そして翌朝に舞う「おきえ」を含めて16番あります。

今回は、「梅木地区」の神楽を撮影しました。場所は「鷗尾神社」。この神社は大永7(1527)年に尾高智の山腹で自刃した豊後佐伯氏第十代当主佐伯惟治(さえきこれはる)の刀・脇差を祀った神社で、山上にあったものを30年程前に現在の場所に移設されたそうです。

由緒ある神社での神楽の特徴は、拝殿の外に神輿を置き拝殿の舞座と神輿の周りの2ヶ所で神楽が舞われることです。そして、性別、年齢の区別なく舞われる事でした。また、飛び入りできる演目もあります。

感動的なのは、子どもたちを見つめる地域の方々の目、そして先生と地域の方々、子どもたちとの体から溢れんばかりの肌と肌とのふれあい、また神楽を観に来られたお客様に対するおもてなしの心が素晴らしいことです。美しい日本の姿がここにはあります。

「全ての子どもたちが舞うことができる!」とおっしゃった氏子総代の表情はとても誇らしげで、愛情溢れる伝統文化を継承していくこと、そして延岡市全体で守っていくことが、私たちに課せられたことだと感じています。



クライマックスの「戸取」



おもてなしの煮しめ



2カ所で舞われたり、子どもや飛び入りなど三川内神楽(梅木)ならではの風景



女子も舞い、大人達は見守りながら神楽を次の世代に伝えていきます。

伝えよう! 郷土料理

北方町「干支おやき」



写真提供:干支おやき本舗れんげ亭

明治22年、干支による区分が行われた北方町。その美々地「未(ひつじ)」というところに、おやきを作っている女性があります。具材は、未で育った野菜で作る「ピリ辛たかな」と「切干大根」の2種類。そして、おやきの皮は、だんご粉や古代米がおいしさを倍増!思わずうなってしまいういしさでした!!

もっと詳しく知りたい方は、HPをご覧ください。
<http://www.nobeoka-brand.jp/info/rengetei.html>

お知らせ

11月16日から4日間、千葉県幕張へ行き、「市町村アカデミー」の議員研修を受けてきました。全国から集まった市町村議員の方々と、「環境」について学習し、最後はプレゼンテーションを行って来ました。



うちだりさ後援会事務所のご案内

〒882-0856
 延岡市出北町1丁目23-11
 電話 & FAX 0982-31-5072
 H.P <http://uchidalisa.com>



携帯電話からは左のQRコードを読み込んでアクセスできます。

「うちだりさブログ」見てね!

